

2026

オリンピック・パラリンピック冬季競技大会  
札幌招致等に係る要望書

平成28年11月

北海道

札幌市

冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会



先日開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックにおける日本人選手の目覚ましい活躍の興奮も冷めやらぬ中、私たちは11月8日に、日本オリンピック委員会に「2026北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会開催提案書」を提出してまいりました。

オリンピック・パラリンピックは、スポーツを通じて子どもたちに夢と希望を与え、世界平和に貢献する世界最大の祭典です。

世界のトップアスリートたちが一堂に会し、互いに敬意を抱きながら、これまでの鍛錬の成果として見せてくれる最高のパフォーマンスに、私たちは感動し、魅了されてやみません。

私たち北海道民は、北海道で冬季オリパラを開催し、世界の多くの人々と夢や感動を共有したいと思っています。そして、改めてスポーツを通じて努力し続ける姿勢、フェアプレーの精神、他者を尊敬し理解する心を学びたいと思っています。

今、北海道では、2017冬季アジア札幌大会に向け準備を進めるとともに、スポーツを核とした地域活性化の取組が急速に広まっています。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も控え、オリパラ教育を始めとしたオリパラムーブメント推進事業に取り組むとともに、障がい者スポーツの裾野拡大の取組みも始めているところです。

わが国では、東京オリパラの前年に2019年ラグビーワールドカップ、2021年には世界水泳選手権と大規模国際大会が次々と開催されることが決定しています。この流れを途切れさせることなく、日本列島の北端で冬のオリンピック・パラリンピックを開催することは、半年後に開催される愛知・名古屋アジア大会とともに、夏・冬を通じたアジアのスポーツ拠点としての地位を確立し、さらには新しい日本の創造と発展に大いに寄与するものと考えます。

今後とも、北海道・札幌オリンピック・パラリンピックの招致実現に向け、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成28年11月

北海道知事 高橋 はるみ  
札幌市長 秋元 克広  
冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会会長 岩田 圭剛

札幌市議会、北海道議会、倶知安町議会、ニセコ町議会における招致決議に加え、指定都市市長会においても北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致への応援決議をいただいております。

#### 2026年冬季オリンピックの札幌招致に関する決議

オリンピック及びパラリンピック競技大会は、世界中の人々の相互理解と友好親善を推進し、世界平和の実現に大きく寄与する世界最大のスポーツ・文化の祭典である。

オリンピック招致・開催の意義は大きく、本市は、アジア初となる1972年の冬季オリンピック開催を契機として一躍世界にその名を広め、本格的に国際都市・近代都市としての道を歩みはじめた。

近年においても、2002年のFIFAワールドカップをはじめとする数々の国際的イベントが開催され、2017年には3回目となる冬季アジア大会の開催を控えているなど、本市は、その実績からオリンピック開催の素地を十分に有するものである。

本年開催されたソチ大会における日本選手団の活躍が記憶に新しいところであるが、札幌でのオリンピックの開催は、市民に夢と誇りを生み、スポーツ振興や国際交流の促進はもとより、青少年の育成や地域の経済発展など、まちの魅力を新たな次元に高め、冬季スポーツをけん引する国際都市として、さらなる飛躍をするための絶好の機会である。

よって、本市議会は、国や北海道の支援、市民や経済界、関係機関の理解と協力のもと、2026年冬季オリンピック及びパラリンピック競技大会の札幌招致を目指す意思をここに表明する。

以上につき決議する。

平成26年（2014年）11月6日

札幌市議会

#### 2026年冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の北海道招致に関する決議

オリンピック・パラリンピック競技大会は、スポーツを通じた人間育成と世界平和を究極の目的とした、世界の国と地域が参加するスポーツの祭典であるとともに、オリンピック憲章に基づき、スポーツを通じて日本と世界の人々が友情と相互理解を深めながら、スポーツを文化や教育、さらには環境と融合させる総合的なプロジェクトである。

本道にとっても、1972年の札幌冬季オリンピックから約半世紀を経た現在、2度目のオリンピック、そして本道初となるパラリンピックを開催することは、再び北海道民に夢と希望を与え、スポーツ振興や国際交流の促進はもとより、次世代を担う子どもたちの未来と障がい者が暮らしやすい社会の実現、誰もが相互に人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に向け大きく寄与するものである。

また、環境に優しい自然豊かな北海道の魅力を世界の人々にアピールする絶好の機会でもあり、世界各国から訪れる観光客の誘客や道産食材等のPR、スポーツ合宿の誘致など北海道全体の地域経済の活性化にとって極めて意義深いものである。

よって、北海道議会は、広く道民の皆様方の理解と協力のもと、2026年に開催される冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の北海道招致を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成28年7月7日

北海道議会

### 2026年「北海道・札幌冬季五輪パラリンピック」招致に関する決議

オリンピック及びパラリンピック競技大会は、世界中の人々の相互理解と友好親善を推進し、世界平和の実現に大きく寄与する世界最大のスポーツ・文化の祭典であり、オリンピック招致・開催の意義は大きい。

2014年に開催されたソチ大会における日本選手団の活躍が記憶に新しいところであるが、北海道・札幌でのオリンピックの開催は、北海道民に夢と誇りを生み、スポーツ振興や国際交流の促進はもとより、青少年の育成や地域の経済発展など、まちの魅力を新たな次元に高め、冬季スポーツをけん引する国際都市として、さらなる飛躍をするための絶好の機会である。

また、アルペンスキー競技を誘致することにより、ニセコエリアを今以上に国内外にアピールする格好の機会でもある。

よって、本町議会は、国や北海道の支援、町民や経済界、関係機関の理解と協力のもと、2026年冬季オリンピック及びパラリンピック競技大会の北海道・札幌招致を共に目指す意思をここに表明する。

以上、決議する。

平成28年6月16日

北海道虻田郡倶知安町議会

### 2026年冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の札幌招致に関する応援決議

オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界の人々の相互理解と友好親善を推進し、世界の平和と発展に大きく貢献する世界最大のスポーツ・文化の祭典である。

現在、札幌市を中心に2026年冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の札幌招致に向けた取り組みが進められている。ニセコ地域は、アルペンスキーの競技会場として計画されていることから、これが実現すれば、開催会場の一つとして大会を身近に体感することができる。また、北海道を舞台に、世界のトップアスリートが力と技を競い合う姿は、未来を担う子どもたちにも夢と希望を与えるとともに、健やかな成長を促すことにつながる。

加えて、世界各地から多くの外国人が訪れ、ニセコの豊かな自然や美しい田園風景、地域住民と接することによって、ニセコの名を世界に発信することができ、さらなる国際交流の促進や地域への経済効果が期待されるとともに、国際的観光地として、一層の発展の好機となるものと考えらる。

よって、ニセコ町議会は、2026年冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の札幌招致の実現に向け、その活動を応援するものである。

以上、決議する。

平成28年6月23日

北海道虻田郡ニセコ町議会

### 2026年冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致を応援する指定都市市長会決議

1972年2月にアジア初の冬季オリンピックを開催し、それ以来、世界の冬季スポーツを牽引してきた札幌市は、2026年冬季オリンピック・パラリンピックの招致実現を目指した活動を行っています。

世界中の人々が集うオリンピック・パラリンピックが、54年の時を超えて、札幌の地で開かれれば、大会運営や国内外からの観客に対するおもてなし、関連文化プログラムの取組、インフラ整備など、ソフト・ハードの両面で指定都市が持つ総合力を世界に向けて発信する絶好の機会となることは間違いありません。

さらには、2020年の東京開催に続いてオリンピック・パラリンピックが日本で開催されることにより、国際社会における日本の存在感がより一層示され、札幌・北海道のみならず日本社会全体の活性化につながっていくことが期待されます。

何よりも、オリンピック・パラリンピックの開催意義は、オリンピック憲章に謳われているように、スポーツの栄光にとどまらず、「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てること」にあります。

このような意義を有するオリンピック・パラリンピックが開催されることにより、世界平和に貢献するとともに、日本、ひいては世界の将来を担う子どもたちにも大いなる夢と希望を与え、平和の素晴らしさを感じる機会を与えることとなります。

2026年冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致の実現に向けて、指定都市市長会は、札幌市の招致活動を応援していきます。

平成28年7月19日

指定都市市長会

## 冬季オリンピック・パラリンピック招致に関する決議

オリンピック・パラリンピックは、人々に感動を与え、世界平和に貢献する世界最大の祭典であるとともに、世界中から選手や関係者、観客等、多くの人々が訪れ、街の発展に大いにつながるものである。

札幌は1972年にアジアで初めて冬季オリンピックを開催し、地下鉄や高速道路等の交通インフラをはじめ、地下街や各種施設等の都市基盤が整備され、市民は、トップアスリートの世界最高のパフォーマンスに魅了され、街が大きく変わっていくのを実感した。

札幌で2回目となるオリンピック、そして初のパラリンピックを開催することは、更新時期を迎えている道路等の交通インフラの整備・拡充をはじめ、各種施設の更新等、大きな経済効果をもたらすのはもちろん、バリアフリーの整備により来訪者の利便性の向上につながるだけでなく、超高齢化社会を迎える北海道・札幌がより暮らしやすくなり、世界的な先進都市として発展するこの上ない機会となる。

については、再び札幌・北海道の魅力を世界にPRし、北海道の新たな時代の成長を実現させるため、官民が一体となり、2017年に開催される冬季アジア札幌大会の成功を期すとともに、2026年北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致を強く求めるものである。

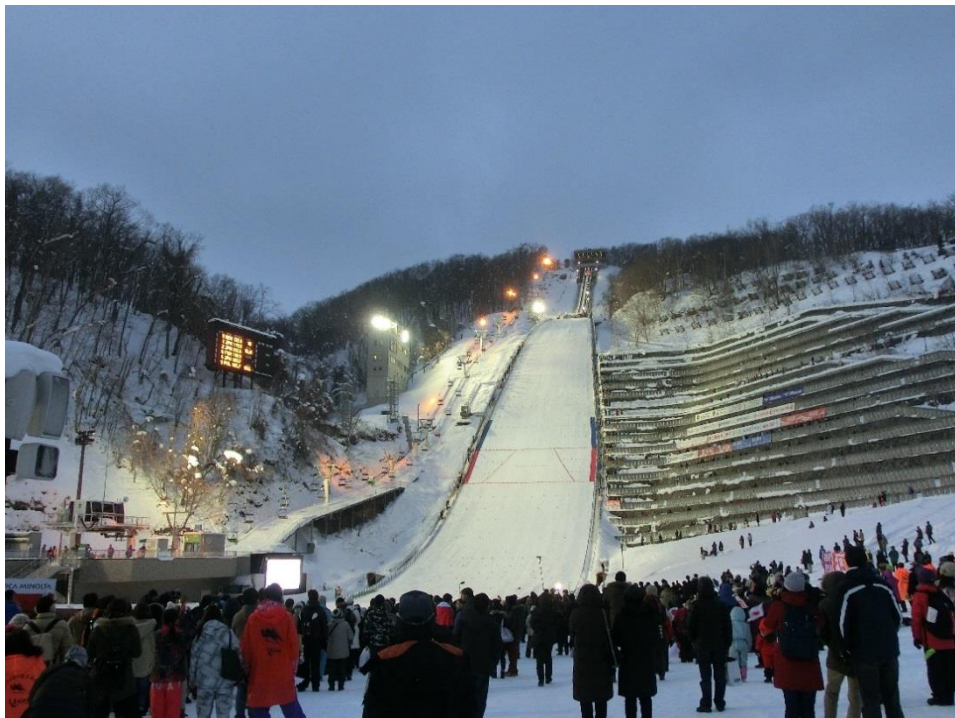
以上、決議する。

平成28年11月16日

冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会

## 要望事項

- 1 冬季オリンピック・パラリンピック招致に係る支援
- 2 ナショナルトレーニングセンターの建設
- 3 国際大会招致と国際基準に合致した施設整備への支援



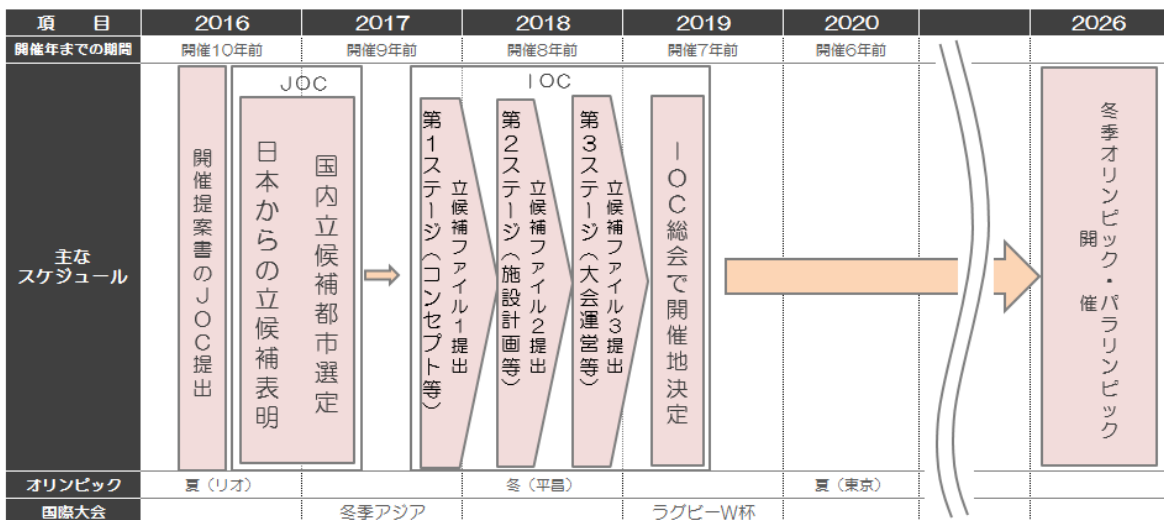
# 1 冬季オリンピック・パラリンピック招致に係る支援

札幌市は、平成 26 年 11 月に 2026 年の冬季オリンピック・パラリンピック招致を表明して以降、北海道庁など関係自治体に経済団体も加わり、官民一体のオール北海道として招致気運醸成の取組みを進めつつ、先の 11 月 8 日には日本オリンピック委員会に対して「開催提案書」を提出いたしました。

1972 年の冬季オリンピックを通じて培った、都市と自然の近接を特徴とする札幌、そして北海道のブランドを生かし、ウインタースポーツをさらに振興することで、世界からより多くの観光客を道内の各地域に惹きつけることは、北海道ひいては日本の活性化につながるものと考えております。

オリンピック・パラリンピック招致は国家プロジェクトであり、国・北海道・札幌市による連携・協力が不可欠との認識のもと、招致活動や施設整備等を含め、過去のわが国における開催実績を踏まえた全面的な支援を要望いたします。

## 【2026 年開催を想定したスケジュール】





## 2 ナショナルトレーニングセンターの建設

- ▶ わが国におけるウィンタースポーツの更なる振興・競技力向上のため、冬季競技専用のナショナルトレーニングセンター中核拠点の札幌への建設を要望。
- ▶ オリンピック・パラリンピック開催に必要となる大規模な施設や、国内に数箇所しかない施設については、ナショナルトレーニングセンターの機能を有する国立競技場としての建設を要望。

[スポーツ庁 政策課]

## 3 国際大会招致と国際基準に合致した施設整備への支援

- ▶ 今後も多くの冬季スポーツ国際大会の招致を実現するため、国際基準に合致したスポーツ施設への改修や建替更新など、予定される施設整備に係る費用について、財源措置の拡充を要望。

### 【1972年 札幌オリンピック開催時の施設整備状況】

○国が建設…………… 大倉山ジャンプ競技場、真駒内屋内・屋外競技場

○市が建設（国補助あり）… 宮の森ジャンプ競技場、月寒体育館（スケート場）、美香保体育館（スケート場）、藤野リージュ競技場



大倉山ジャンプ競技場  
(1970年 国が主体として建設)



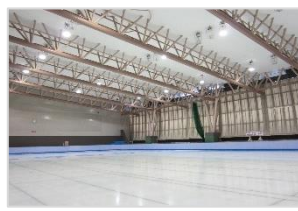
真駒内屋内競技場 ※北海道所有  
(1970年 国が主体として建設)



宮の森ジャンプ競技場  
(1970年 国が建設費2/3を負担)



月寒体育館スケート場  
(1972年 国が建設費2/3を負担)



美香保体育館スケート場  
(1972年 国が建設費2/3を負担)



藤野リージュ競技場  
(1970年 国が建設費2/3を負担)

# TOPICS

## ウィンタースポーツ王国・北海道は 国際競技大会の開催・誘致に積極的に取り組みます

1

### 2017 冬季アジア札幌大会、 いよいよ来年 2 月 19 日に開幕



札幌と帯広で開催される2017冬季アジア札幌大会開幕まで残すところ3カ月を切りました。

アジアの国と地域から訪れる多くの方々に、スポーツの夢と感動、北海道・札幌の魅力を体感していただけるよう、心のこもったおもてなしでお迎えします。

#### ●開催期間

2017年(平成29年)2月19日(日)～26日(日)

●開催競技 スキー(アルペン、クロスカントリー、ジャンプ、フリースタイル、スノーボード)、スケート(スピードスケート(帯広市)、ショートトラック、フィギュア)、バイアスロン、アイスホッケー、カーリング

5競技11種別に約30の国と地域から2,000人を超える選手団の参加を想定しています。



**エゾモン**  
\*EZOMON\*

大会公式マスコット

2

### 障がい者スキーワールドカップを来年3月に開催

来年3月に障がい者スキーのワールドカップが札幌で開催されます。バイアスロンのワールドカップ開催は国内初。本大会の開催を通じ、障がい者スポーツの推進に取り組んでいきます。

#### ●開催期間

2017年(平成29年)3月18日(土)～22日(水)

●開催競技 クロスカントリー、バイアスロン

●競技会場 西岡バイアスロン競技場





